

日清間の悪感情は夙く琉球事件に始まり大院君の鎖國主義我國の朝鮮獨立の承認朝鮮に於ける兩國兵の駐在甲申の亂等により益其度を高めたり。明治二十七年(光緒二十年)朝鮮に東學黨といふもの起り西教を斥けて東學を起すべきを唱へ勢頗る盛なりしかば我國は清國に向つて協力之が平定を謀りしに彼れ之を聽かず却て朝鮮は其外藩なりと號し天津條約を破りてわが出兵を拒み且我軍艦に發砲せしかば其年八月一日我國遂に宣戰を布告して征清の師を出すに至れり。

### 二百五十 日清戦争

宣戰布告に先ち我兵先づ牙山の清兵を逐ひ其軍艦を豊島沖に破りしが、公布の後我一軍は海を渡りて清兵と平壤(九月十日)に戦て大に之を破り勢に乗じて盛京省に至る平壤に戦勝の翌日我海軍亦北に進んで敵の艦隊を海洋島附近に破り尋で第二軍は遼東半島に上陸せしかば旅順口威海衛相次で陥り我海軍は渤海灣を扼し陸軍は牛莊に據り七將に北京に向つて進撃せ

んとす。清廷震撼し李鴻章を我國に遣はし和を請はしむ。

### 二百五十一 下ノ關係約 日清戦争の終局

明治二十八年四月我伊藤博文清の李鴻章と下ノ關に會し十七日左の媾和條約に調印す。

- (一) 清國は朝鮮の獨立國たるを確認すること。
- (二) 償金二億兩を出し遼東半島、臺灣、澎湖島を割讓すること。
- (三) 沙市、重慶、蘇州、杭州の互市を開くこと。

### 二百五十二 三國同盟 遼東半島の還付

我國の清國に勝つて下ノ關係約を定めて後未だ一週日を経ざるに久しく極東經略に熱中せる露西亞は我國の遼東半島を占領するを害とし獨佛二國と同盟して辭を東洋平和の維持に託し我國に向ひ半島を永久に占領するなからんことを勧めしかば我國は代償金三千萬兩を受けて遼東半島を清國に還附せり。

### 二百五十三 日清戦役後列強の支那に

於ける土地永借

日清戦役後、清國の疲弊に乗じ、列國の清國に獲たる特權の中、土地永借に關するものは左の如し。

- (イ) 獨逸。 膠州灣の永借期限九十九年……………明治卅一年一月十九日調印
- (ロ) 露國。 旅順港、大連灣の永借期限二十五年……………同三月廿七日調印
- (ハ) 英國。 威海衛の永借期限二十五年……………同七月一日調印
- (ニ) 佛國。 廣州灣の永借期限二十五年……………同四月六日調印

### 二百五十四 義和團の亂 北清事件

明治三十三年二月、清國に義和團(又は拳匪と云)といふ暴徒起り、耶蘇教を排して外國人を殺し、官兵と合して遂に北京の各國公使館を包圍し、在留外人の難に死する者多し。是に於いて我國率先して英佛米獨露の各國と連合軍を組織し、太沽を破り、天津を陥れ、遂に北京に入りて公使以下の外人を救ひ出すと

を得たり。此時清廷既に難を避けて、西安に遷りしかば、連合軍は北京を占領し、兵を出して暴徒平定し、爾來列國會議を開きて善後策を講せしが、明治三十四年九月七日に至りて、始めて議定し、清廷概ね之に従ひ、端郡王以下の元兇を處罰し、償金四億五千萬兩を列國に約し、此に所謂北清事件の落着を見たり。翌三十五年一月七日、清帝北京に還る。

### 二百五十四 注意すべき事項

(イ) 琉球。 琉球はもと三部に分れしが、中部を占領せし中山王は之を統一して後清の太祖の封冊を受け、同時に我國に臣屬して附庸となる。後二百餘年を経て我島津家久之を征服し、爾來年々來貢し、明治の初に至りて尙泰を藩王とす。後臺灣事件によりて清と交渉ありしが、遂に琉球の我版圖なること確定し、藩を廢して沖繩縣を置けり。

(ロ) 丁汝昌。 日清戦争の際、清の北洋水師の提督として我軍と黃海に戦て敗れ、尋で我軍威海衛を封鎖するに及んで、人をして降を乞はしめ自ら引責

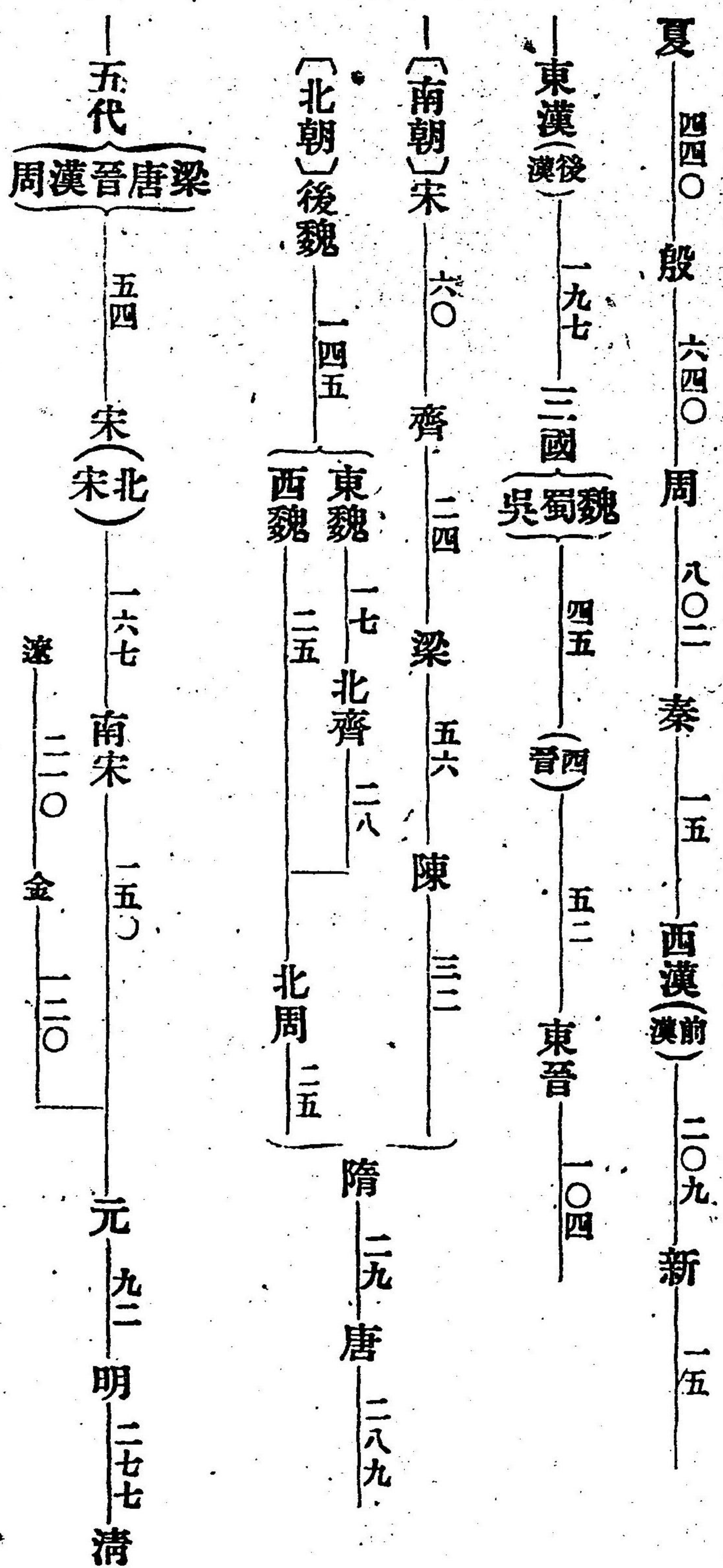
して艦中に自殺す、世人皆その義を稱す。  
 (ハ)義和團の由來。義和團は秘密結社なる大刀會及び小刀會等の組織したる團體にして、外教を排し、拳棒を練習するを以て主義綱領となし、嘉慶以來、山東河南の地を騒がしたり。光緒帝の世となりては外國との葛藤絶ゆることなく、日清戦争以來列強益々驕慢なるに隨ひ、所在の外國宣教師亦漸く跋扈するに至りては、彼等の鬱憤抑ゆること能はず、終に暴舉を以て外國人若くは異教徒に危害を加ふるを以て、彼等唯一の目的となすに至りしもの、如し加ふるに皇太子の生父たる端郡王は、隱然義和團の首領と目せられしほどなるを以て、團匪が三十三年二月山東省に蜂起するや、忽ちにして大亂とはなれるなり。

# 東洋史終

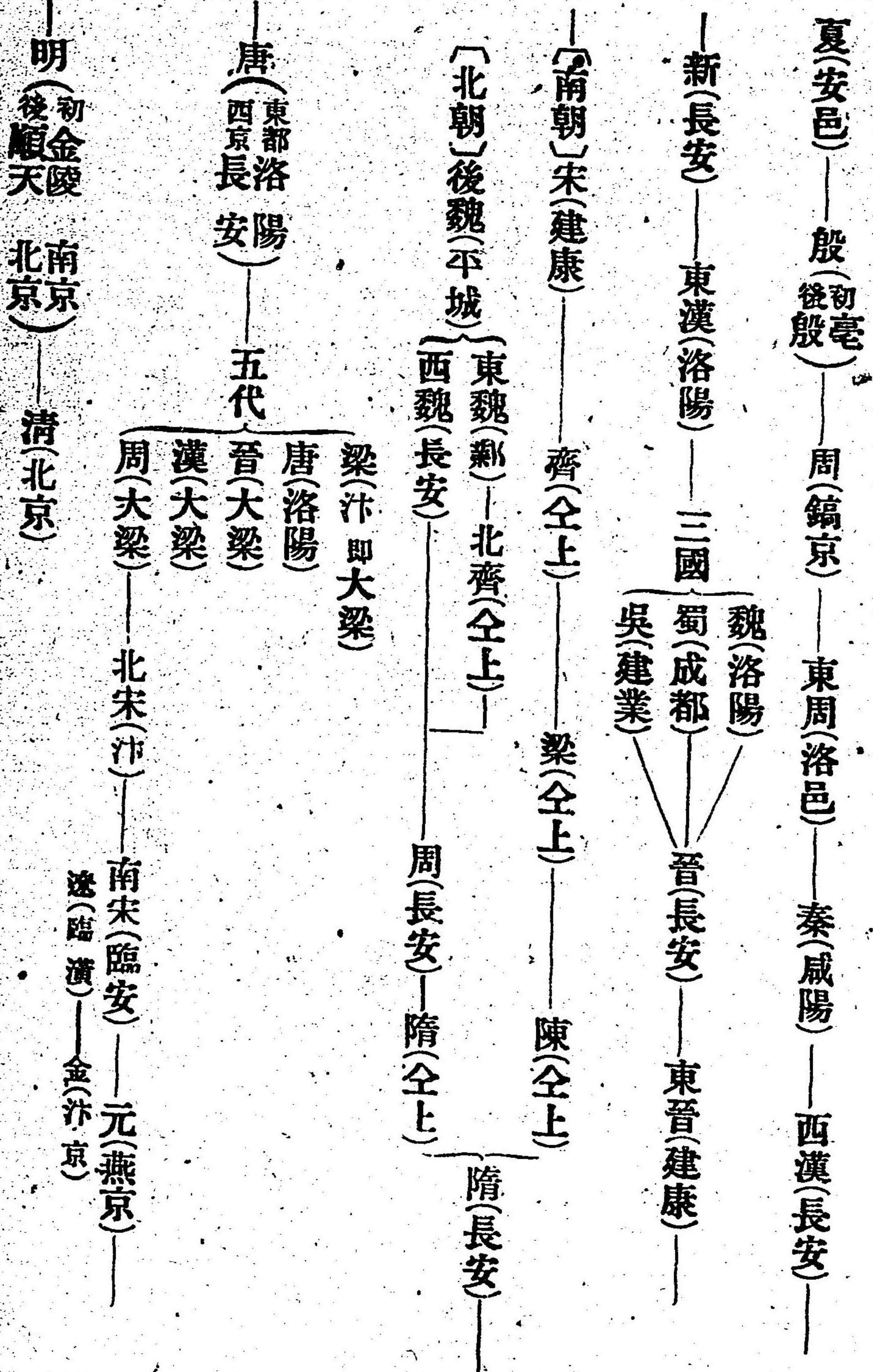
## 附錄

### 歷代興亡表

各代ノ下ニ附セルハソノ年數ナリ

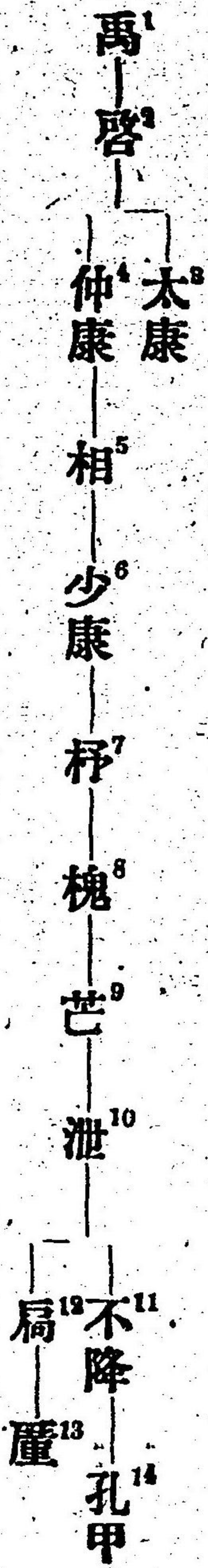


歷代帝都表

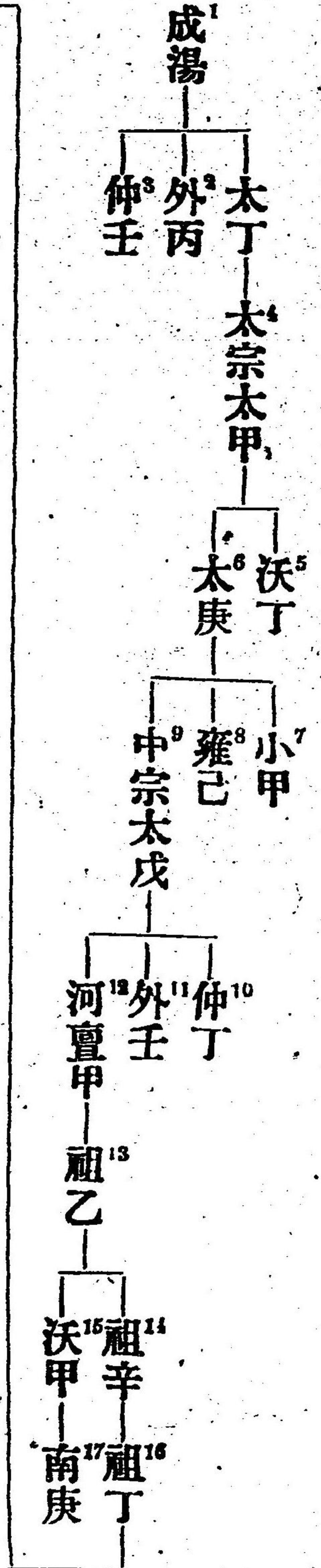


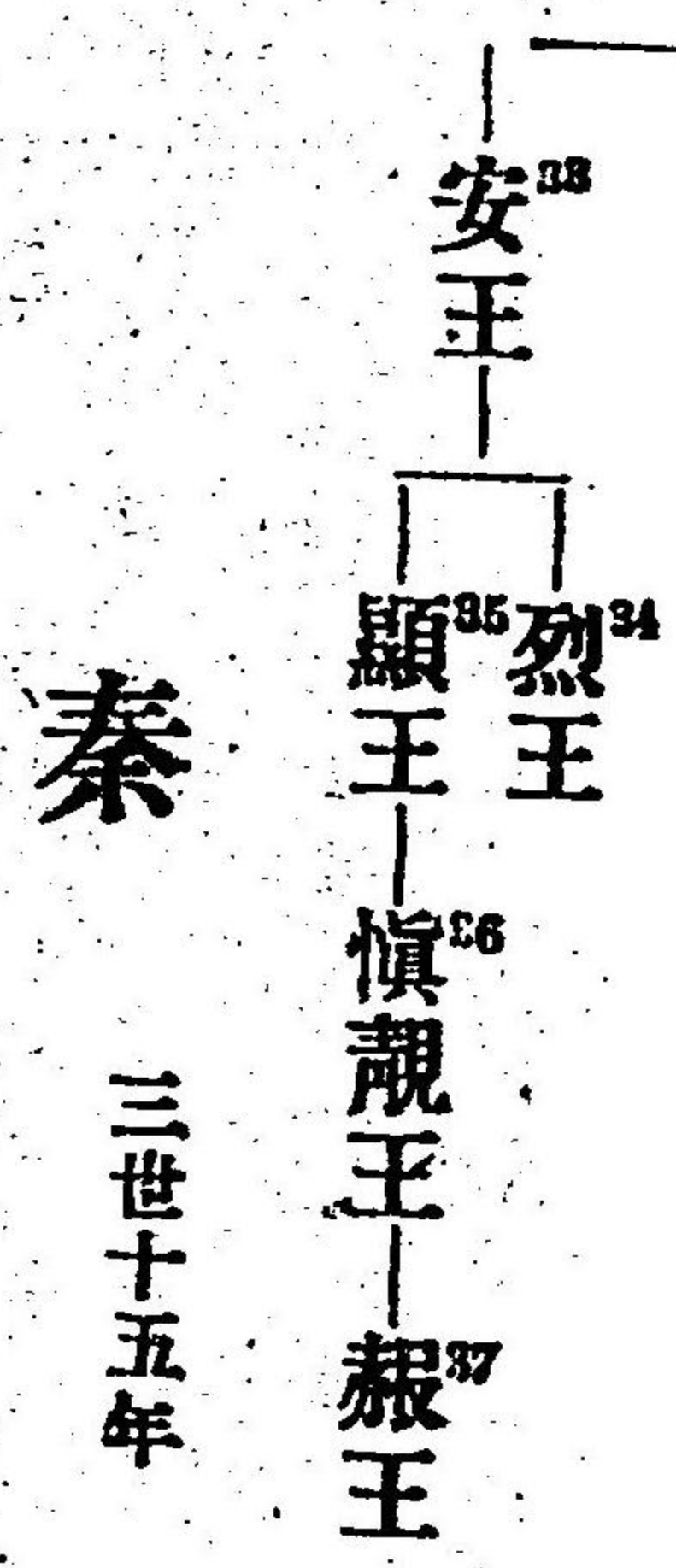
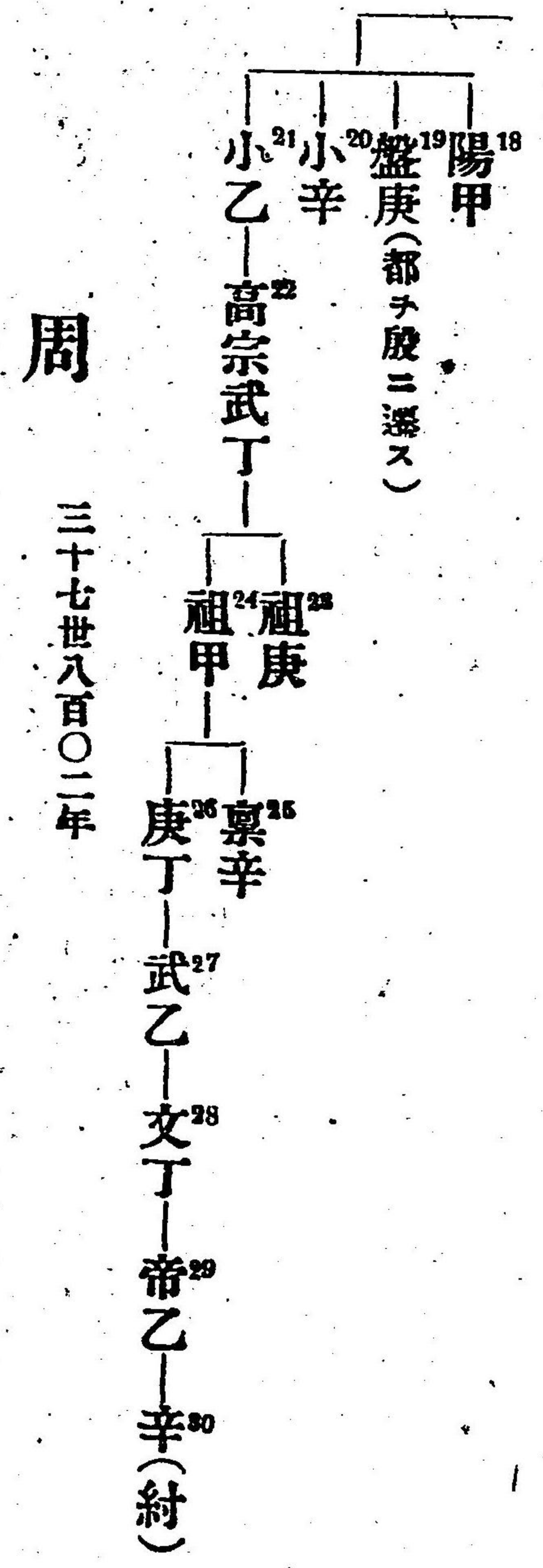
歷代世系

夏 十七世四百有餘年



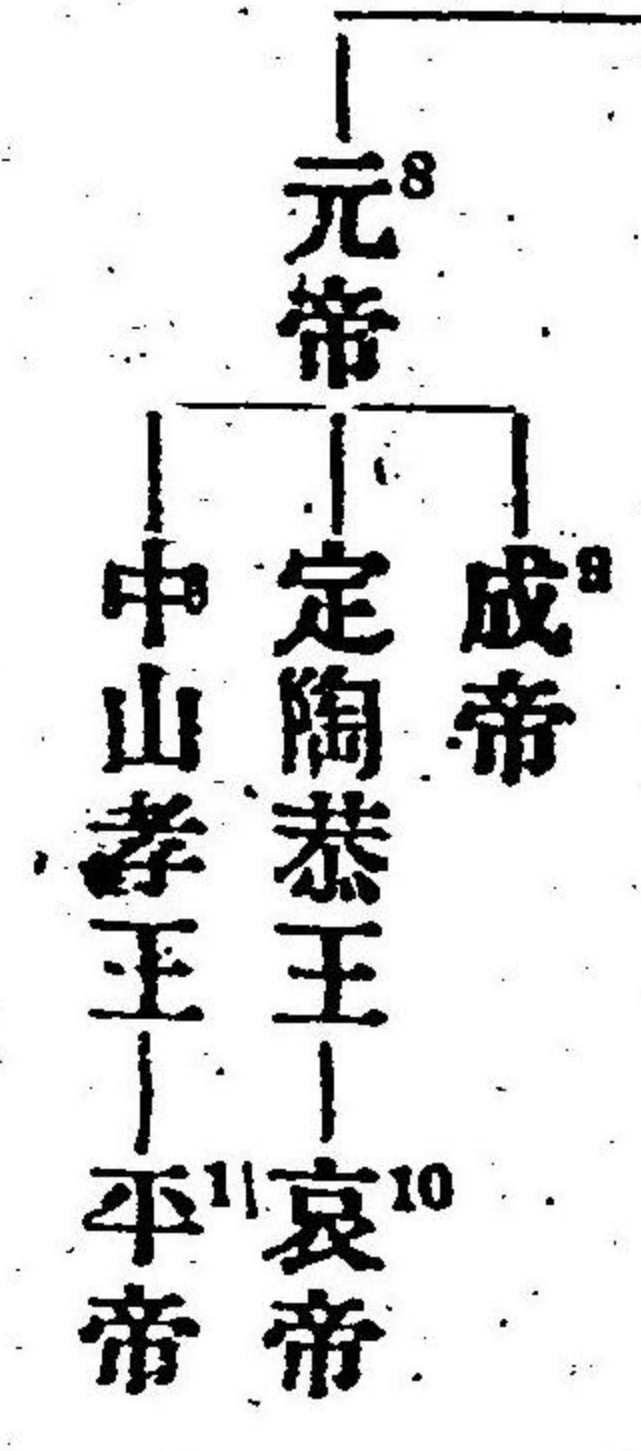
商 三十世六百有餘年





始皇帝政 — 某王子嬰(三世皇帝) — 二世皇帝胡亥

西漢 十一世二百九年



東漢

十二世百九十六年

光武帝—明帝—章帝

和帝—殤帝

清河孝王—安帝—順帝—冲帝

千乘貞王—樂安夷王—渤海孝王—質帝

濟比惠王

河間孝王

蠡吾侯—桓帝

解瀆亭侯淑—長—靈帝

獻帝

魏

五世四十六年

曹操

文帝(曹丕)

燕王—元帝

明帝—廢帝—齊王

東海定王—廢帝—髦

蜀漢

二世四十二年

昭烈帝(劉備)—後主(禪)

吳

四世五十二年

孫堅—大帝(孫權)

景帝

南陽王—晉歸命侯

廢帝—會稽王

晉

十五世百五十六年

司馬懿

舞陽忠武侯

晉文王昭—武帝

鄉邪武王—恭王

惠帝

吳孝王—愍帝

懷帝

元帝

明帝

簡文帝

武帝

成帝

康帝

穆帝

哀帝

廢帝

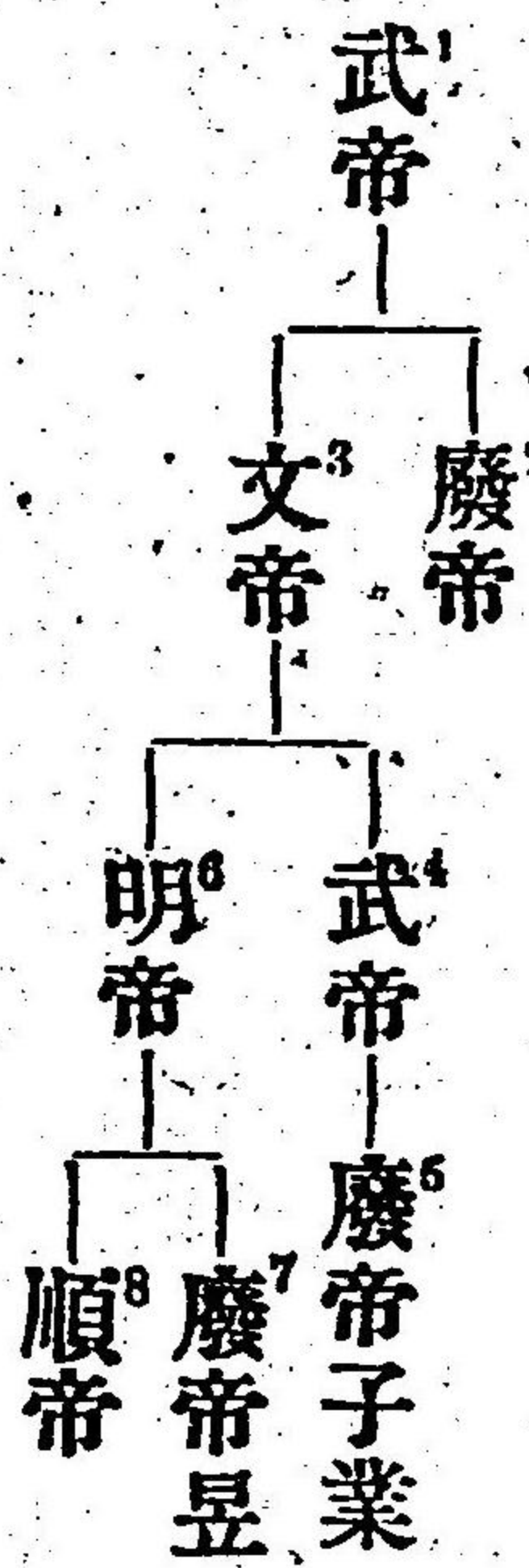
安帝

恭帝

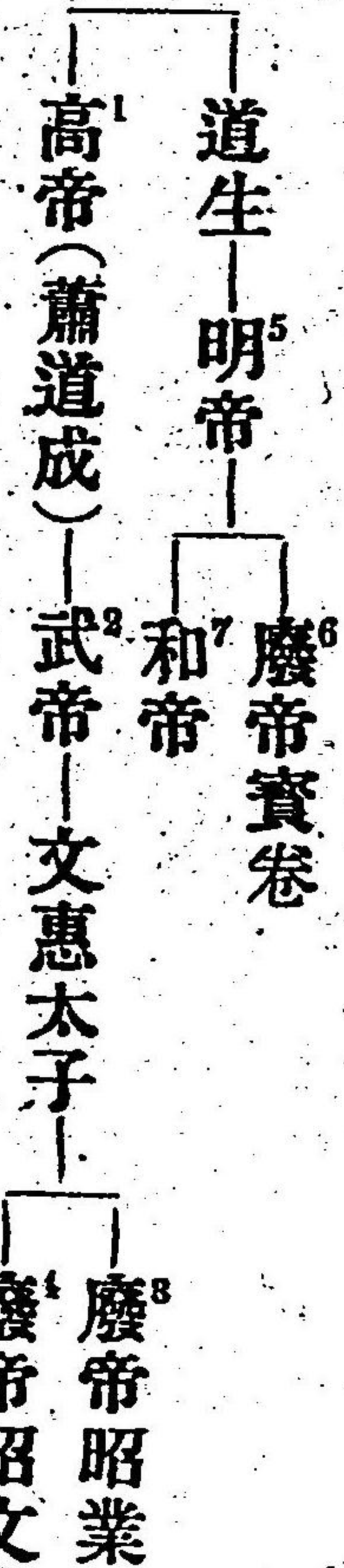
東漢史 附錄

南朝

宋 八世六十年



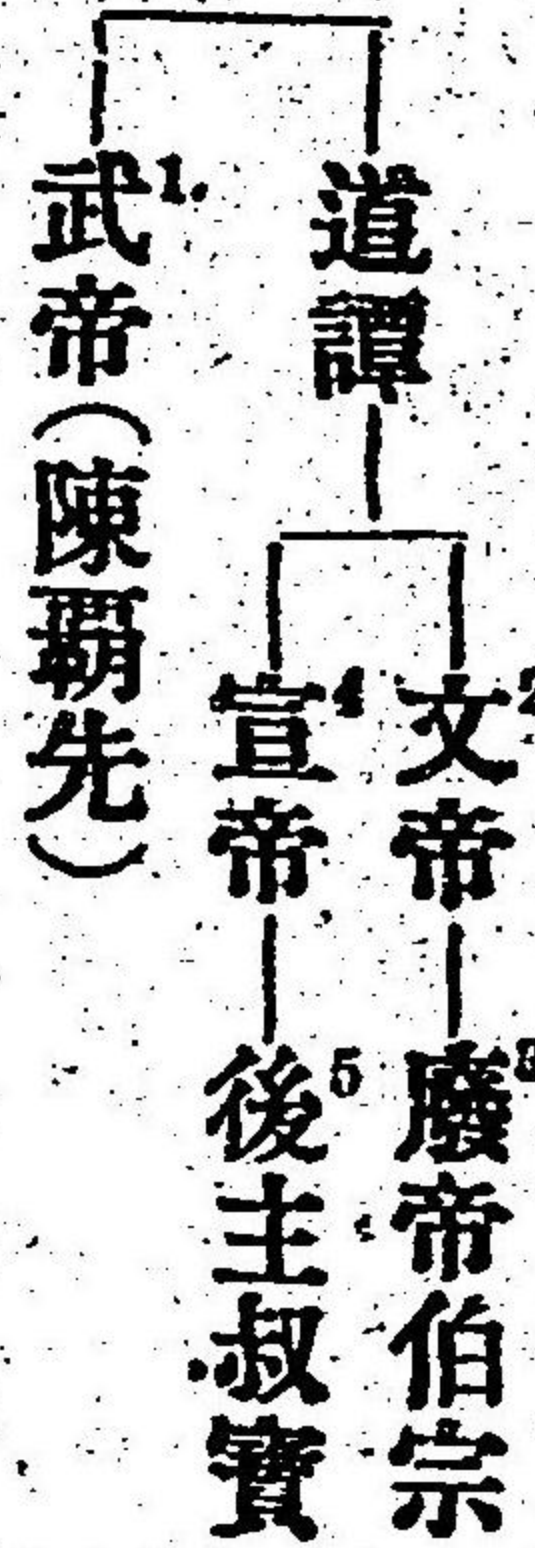
齊 七世二十四年



梁 四世五十六年



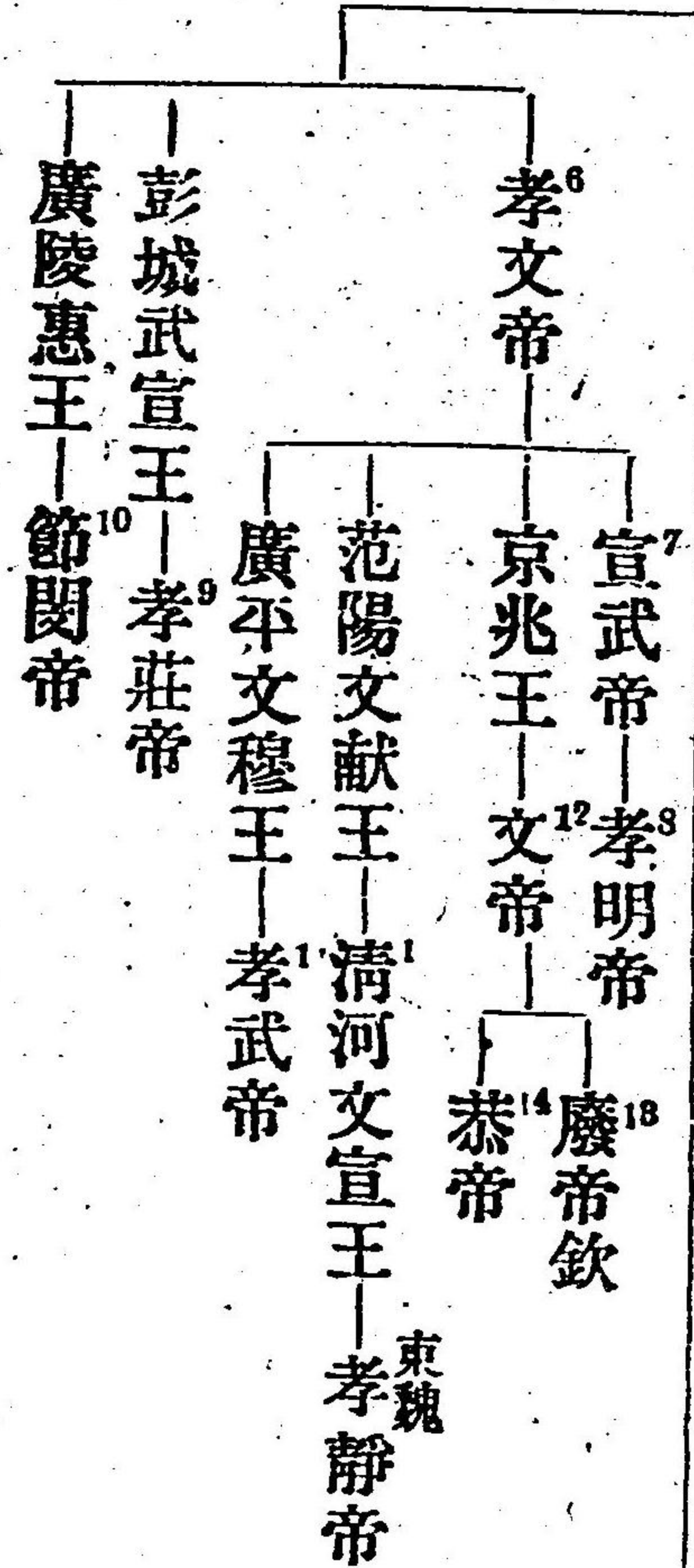
陳 五世三十二年



北朝

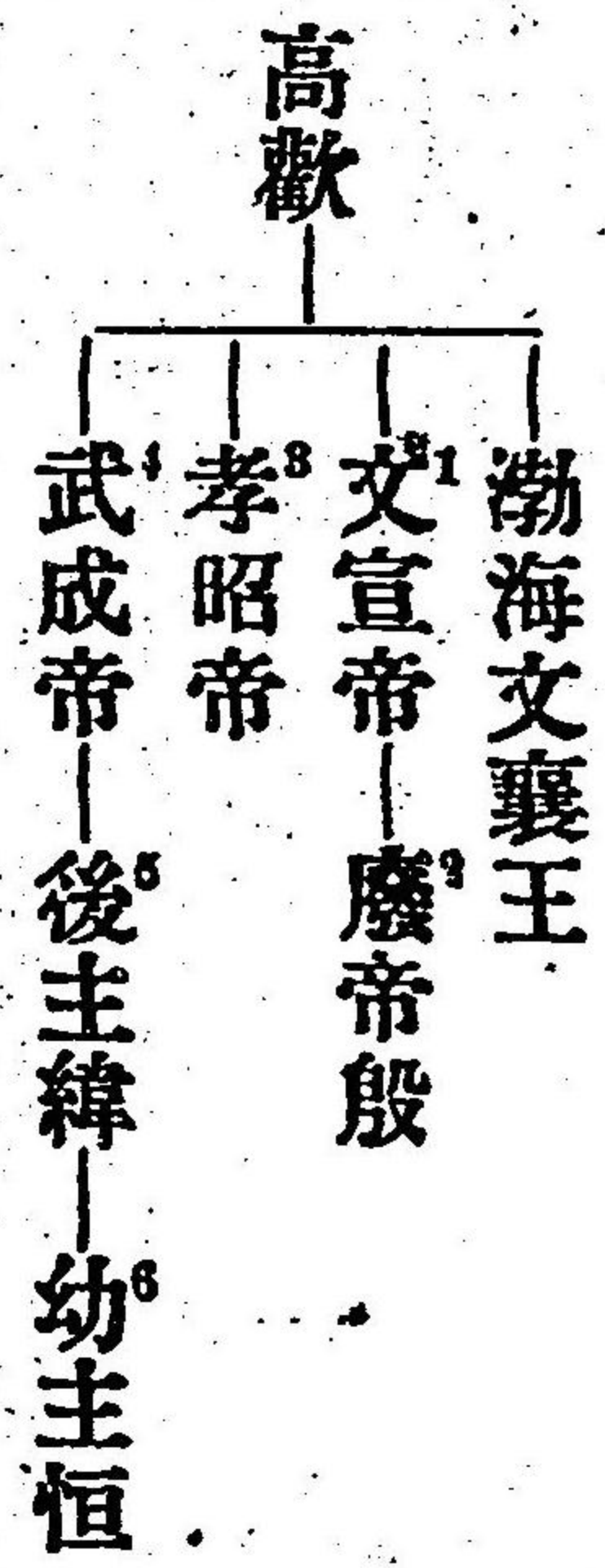
後魏 十四世百七十二年

道武帝(拓跋珪) — 明元帝 — 太武帝 — 景穆太子 — 文成帝 — 獻文帝

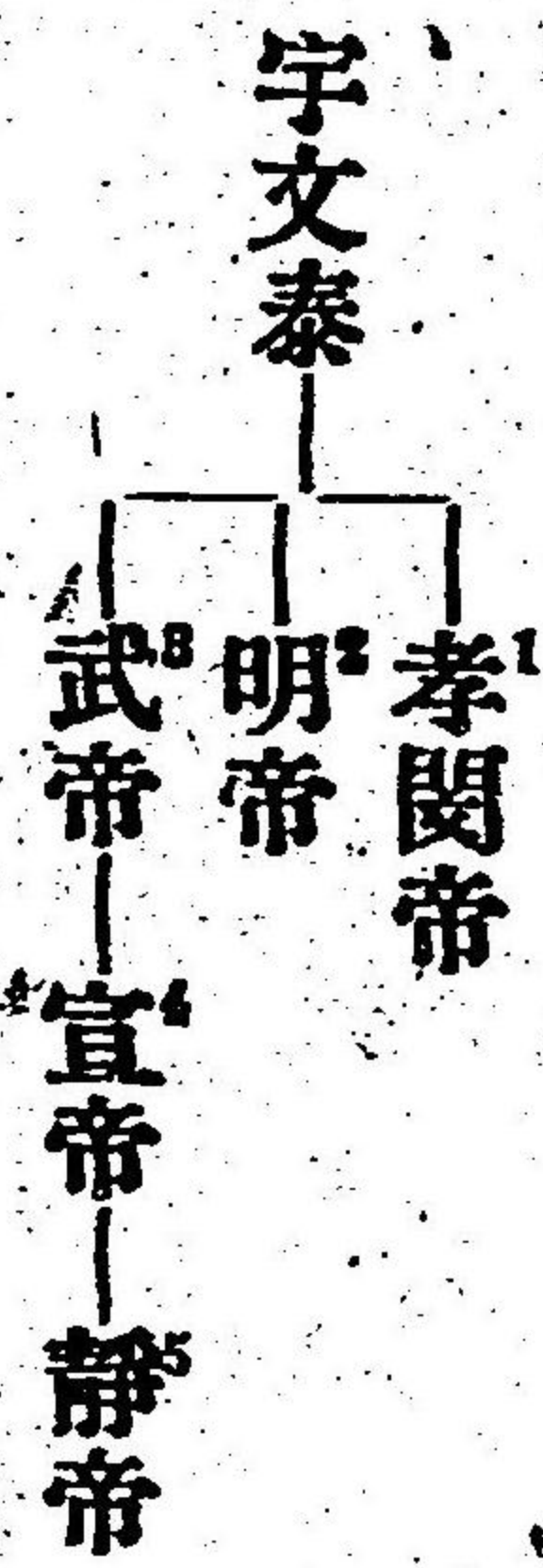


東洋史 附錄

北齊 六世二十八年



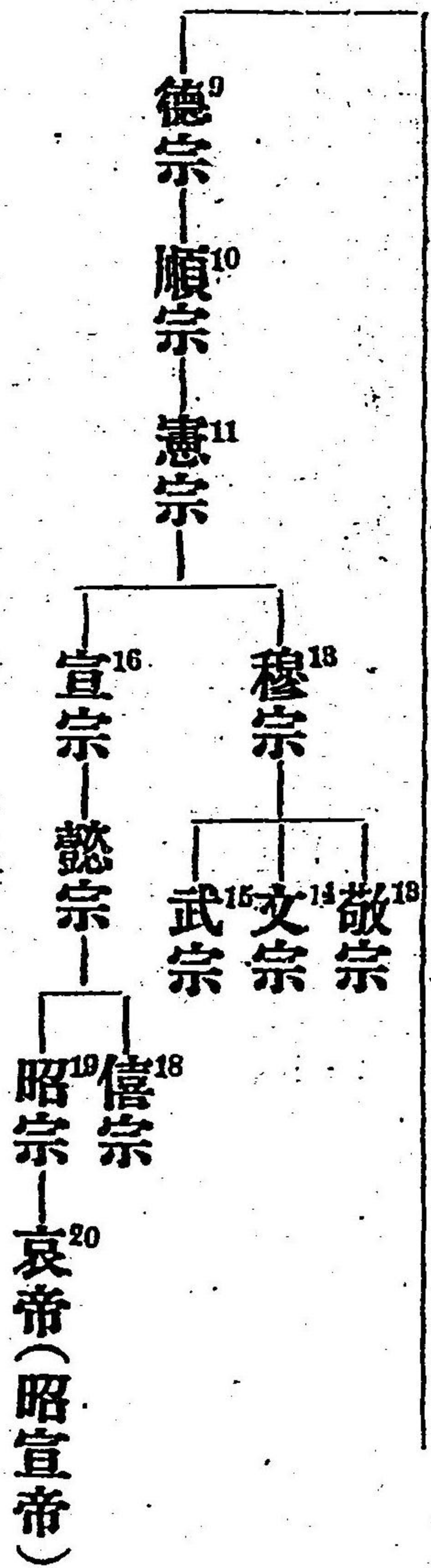
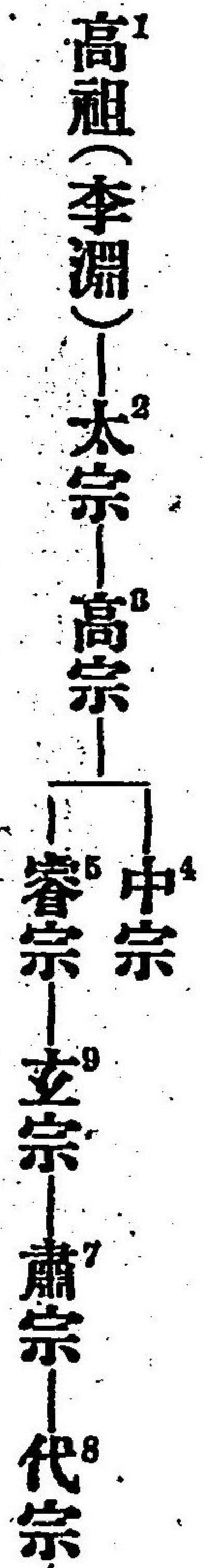
後周 五世二十五年



隋 三世三十九年



唐 二十世二百八十九年

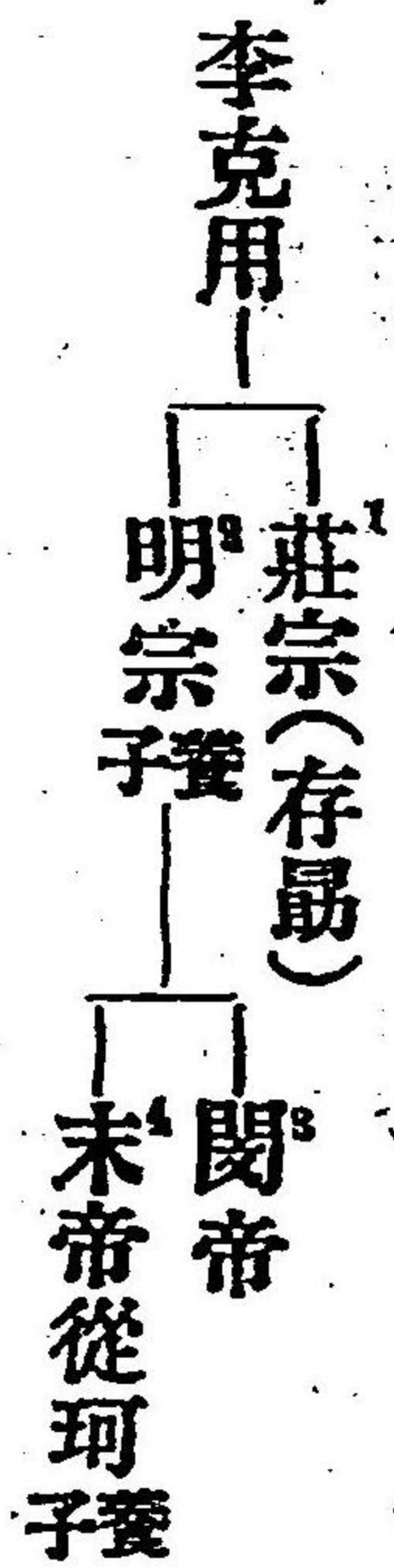


### 五代

梁 二世十七年



後唐 四世十四年



東洋史 附錄



晉 二世十一年

宋王—出帝  
高祖(石敬瑭)

漢 二世四年

高祖(劉暠)—隱帝

周 三世十年

太祖(郭威)—世宗—恭帝

宋 十八世三百二十年

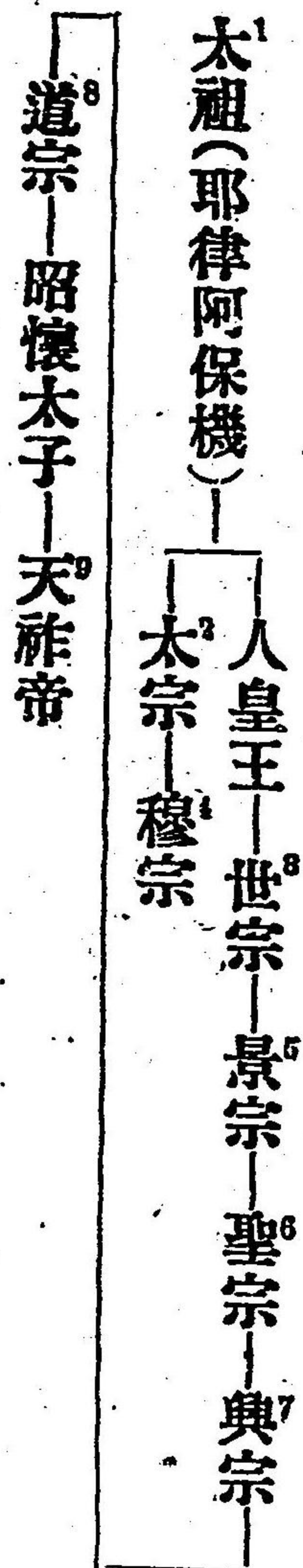
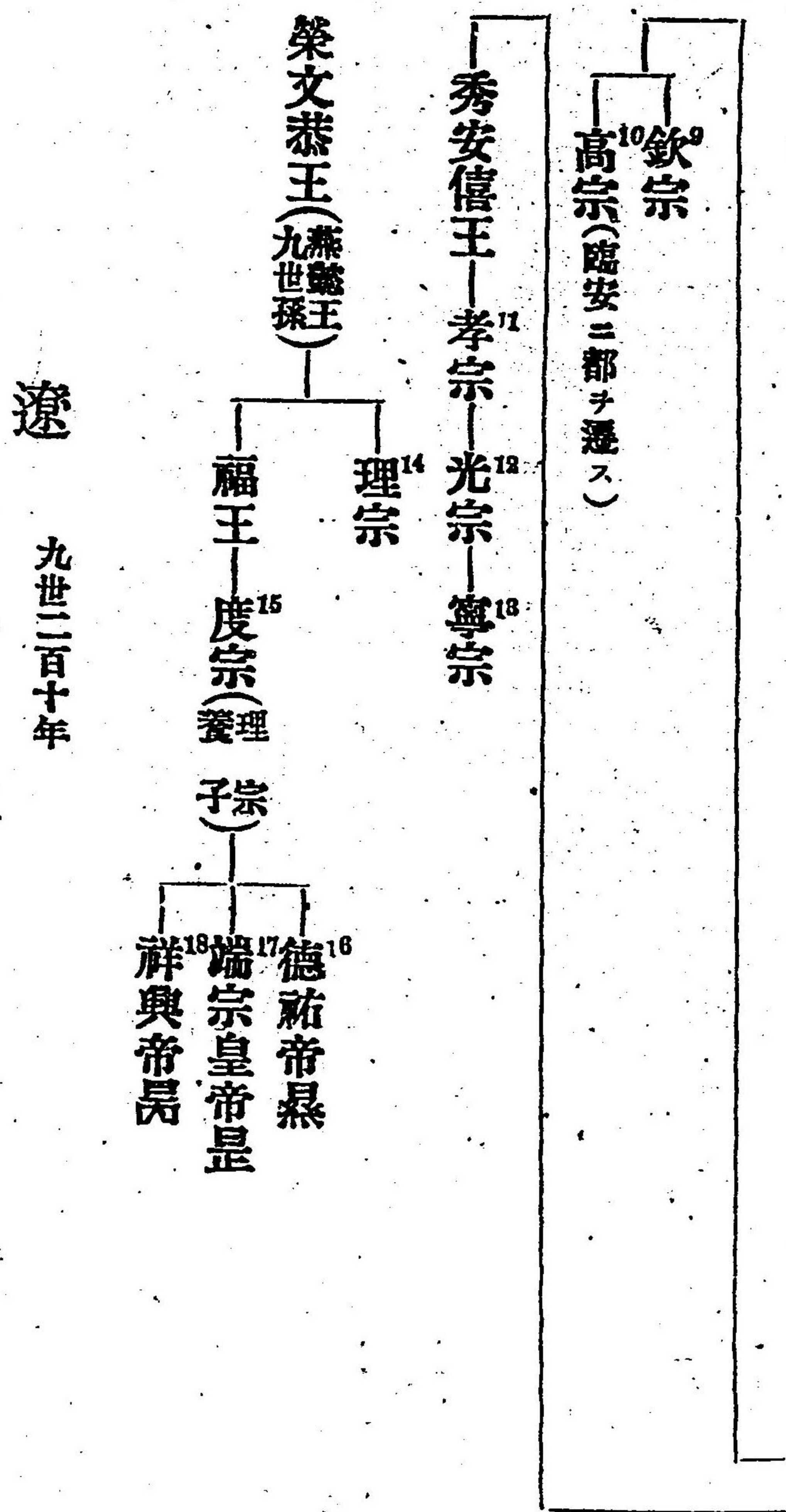
太祖(趙匡胤)

燕懿王

秦康惠王—英公—新興侯—華陰侯—東頭供奉令

太宗 真宗—仁宗

商恭靖王—濮安懿王—英宗—神宗—哲宗—徽宗



德宗大石(太祖八世孫) — 仁宗伊列 — 天禧帝直魯克

承天太后普速完

金 九世百二十年

太祖(完顏阿骨打) — 繩果 — 熙宗

梁宋王 — 廢帝廸古乃(漢名亮)

宋王幹離不

梁王兀朮

亮王訛魯覲

訛里朶 — 世宗

哀宗

夏 十世百九十年

宣孝太子 — 宣宗 章宗

廢帝永濟

景宗(李元昊) — 毅宗 — 惠宗 — 崇宗 — 仁宗 — 桓宗

越王 — 襄宗

某 — 齊忠武王

神宗 — 獻宗 — 清平郡王 — 睨

元 十世九十八年

太祖(鐵木真) — 太宗(窩闊台) — 定宗(貴由)

拖雷 — 憲宗(蒙哥)

世祖(忽必烈) — 皇太子真金

旭烈兀

阿里不哥

甘麻刺 — 秦定帝(也孫鐵木兒) — 明宗(和世球)

武宗(海山)

文宗(圖帖睦爾)

答剌麻八剌 — 仁宗(愛育黎拔力八達) — 英宗(碩德八剌)

成宗(鐵木耳)

順帝(妥歡貼睦爾) — 昭宗(愛猷識理達臘) — 脫古思帖木兒汗

一 寧宗(懿璘質班)

明 二十世二百九十二年

太祖(朱元璋)

懿太子—惠帝(建文帝)

成祖(永樂帝)—仁宗(洪熙帝)—宣宗(宣德帝)

英宗(正統帝)

憲宗(成化帝)

孝宗(弘治帝)—武宗(正德帝)

代宗(景泰帝)

興獻王—世宗(嘉靖帝)

光宗(泰昌帝)—熹宗(天啓帝)

福恭王—安宗(弘光帝)

桂端王—安仁王由棧

紹宗(隆武帝)  
太祖九世孫  
(唐王)  
帝由榔(永曆帝)  
(永明王)

清

太祖(奴兒哈赤)—太宗—世祖(順治帝)—聖祖(康熙帝)

世宗(雍正帝)—高宗(乾隆帝)—仁宗(嘉慶帝)—宣宗(道光帝)

文宗(咸豐帝)—穆宗(同治帝)—醇親王奕譞—今皇帝載淳(光緒帝)

東洋史附錄終

# 略年表

	皇紀	西紀	支那曆	事實
略年表	前 三九一	B.C. 1051		周の武王の即位
	一一〇	770		周室の東遷
	後前 一一二 八二	712 481	周平王四十九年—敬王元年	春秋の世
	一九	679	僖王 三	齊の桓公の霸
	後 二九	632	襄王 二〇	晉の文公の霸、城濮の戦
	三八	623	同 二九	秦の穆公の霸
	六四	597	定王 一〇	楚の莊王の霸、邲の戦
	一八一頃	480	敬王 四〇頃	釋迦歿す、第一回の三藏結集
	一八二	479	同 四一	孔子歿す、
	一八八	473	元王 三	越の勾踐の霸

二五八	403	威烈王	二三	三晉(韓魏趙)諸侯となる
三〇二	359	顯王	一〇	商鞅の變法
三二八	333	顯王	三六	六國合従
三三四	327	同	四二	アレクサンドル印度に入る
四〇五	256	赧王	五九	西周亡ぶ
四一一頃	250	惠王	六頃	第三回の結集(阿輸迦王)
四一一	249	惠王	七	東周亡ぶ
四四〇	221	秦始皇帝	二六	秦の統一
四五一	210	同	三七	始皇帝歿す
四五五	206	三世皇帝	二	秦亡ぶ
四五九	202	漢(西楚)	五五	漢の高祖の即位、天下一統
五〇七	154	景帝	三	吳楚七國の亂
五二一	140	武帝建元	元	武帝の即位

六六八	A.D. 8	新 孺子嬰 初始元	王莽自ら新帝と稱す
六八三	23	王莽 地皇 四	昆陽の戰
六八五	25	東漢 光武帝 建武元	東漢の光武帝の即位
七二〇頃	60	明帝 永平 三頃	第四回の結集(迦膩色迦王)
七二九	69	同 同 一二	洛陽に白馬寺を建立す
八二六	166	桓帝 延熹 九	大秦王安敦の使者來る、黨錮の變起る、
八六八	208	獻帝 建安 一三	赤壁の戰
九二五	265	晉 武帝 太始 元	晉の武帝の即位
九六四	304	惠帝 永興 元	匈奴の劉淵、漢王と稱す
九七七	317	東晉 元帝 建武 元	晉室の東遷
一〇四三	383	孝武帝 太元 八	淝水の戰
一〇五八	398	安帝 隆安 二	後魏の拓跋珪帝位に即く
一〇八〇	420—	宋武帝 永初 一	南北朝時代
一二四九	589	隋文帝 開皇 九	

略年表

一一二五	555	梁 敬帝 紹泰 元	突厥の木汗可汗柔然を滅ぼす
一二四九	589	隋 文帝 開皇 九	隋の一統
一二六七	607	唐 煬帝 大業 三	我國始めて隋と通好す
一二七八	618	唐 高祖 武德 元	唐の高祖の即位
一二八六	626	同 同 九	太宗(李世民)の即位
一二九五	635	太宗 貞觀 九	景教の傳來
一三五〇	690	中宗 嗣聖 七	則天武后唐を篡ふ
一三七二	712	睿宗 太極 元	玄宗の即位
一三七三	713	玄宗 開元 元	渤海國興る
一四一五	755	同 天寶 一四	安祿山の叛
一五六七	907	哀帝 天祐 四	唐亡び梁代る
一五七六	916	末帝 貞明 二	契丹の耶律阿保機帝と稱す(遼の太祖)
一五九六	936	高祖 天福 元	高麗の太祖王建の即位

一六二〇	960	周 恭帝 建隆 元	宋の太祖趙匡胤の即位
一六六四	1004	真宗 景德 元	澶州の盟
一七二九	1069	神宗 熙寧 二	王安石新法を立つ
一七七五	1115	徽宗 政和 五	女眞の阿骨打帝と稱す(金の太祖)
一七八五	1125	同 宣和 七	遼亡び、金盛なり、
一七八七	1127	欽宗 靖康 二	靖康の難
一七九五	1135	高宗 紹興 五	高宗臨安に都を奠む
一八〇一	1141	同 同 一一	金宋構和
一八六六	1206	寧宗 開禧 二	蒙古の鐵木真成吉思汗と稱す(元の太祖)
一八七八	1218	同 嘉定 一一	蒙古の西征軍出發
一八九四	1234	理宗 端平 元	金亡ぶ
一八九六	1236	同 同 三	拔都の出征
一九〇一	1241	同 淳祐 元	リーグニツツ(ワールスタット)の戦

略年表

二九一八	1258	同 寶祐 六	旭烈兀バグダードを陥る
一九二〇	1260	同 景定 元	忽必烈大汗となる
一九三九	1279	元 世祖 至元 一六	宋亡ぶ、元の統一
一九四一	1281	同 同 一八	元軍日本に大敗す
二〇二八	1368	明 順帝 至正 二八	明の太祖朱元璋の即位
二〇二九	1369	明 太祖 洪武 二	帖木兒サマルカンドに都す
二〇五二	1392	同 同 二五	朝鮮の太祖李成桂の即位
二〇六二	1402	惠帝 建文 四	燕王棣(成祖)の篡立、アングラの戦
二一〇九	1449	英宗 正統 一四	土木の變
二一四〇	1480	憲宗 成化 一六	露西亞のイヴァン三世欽察汗を滅ぼす
二一五八	1498	孝宗 弘治 一一	ヴァスコ・ダ・ガマの印度新航路發見
二一七〇	1510	武宗 正徳 五	葡萄牙人印度のゴアに據る
二一八六	1526	世宗 嘉靖 五	パニパットの戦、莫臥兒帝國の崩建

二二〇九	1549	同 同 二八	サビエル我國鹿兒島に来る
二二二三	1563	世宗 嘉靖 四二	平海衛(興化府)の戦
二二二五	1565	同 同 四四	レガスピロ比律賓群島を占領す
二二三二	1572	穆宗 隆慶 六	俺答明と和す
二二五二	1592-8	神宗 萬曆 二〇	秀吉の朝鮮征伐
二二六一	1601	神宗 萬曆 二九	利瑪竇北京に入り天主教堂を建つ
二二七六	1616	同 同 四四	清の太祖奴兒哈赤の即位
二二九六	1636	思宗 崇禎 九	太宗國號を清と改む
二二九七	1637	同 同 一〇	朝鮮清の屬邦となる
二二九九	1639	同 同 一二	英人マドラスに據る
二三〇四	1644	同 同 一七	明亡ぶ、世祖都を北京に遷す
二三二一	1661	永明王永曆 一五	聖祖(康熙帝)の即位、朱成功臺灣に入る
二三四四	1683	聖祖 康熙 二三	臺灣清領となる

略年表

二三四九	1689	同 同 二八	尼布楚條約
二三五六	1696	同 同 三五	昭莫多の戰
二三八四	1724	世宗雍正 二	天主教嚴禁
二三八七	1727	同 同 五	恰克圖條約
二三九五	1735	同 同 一三	高宗(乾隆帝)の即位
二四一七	1757	高宗乾隆 二二	プラシートの戰
二四三四	1774	同 同 三九	ヘスチングス英領印度總督となる
二四九九	1839	宣宗道光 一九	林則徐英商の阿片を焚く
二五〇〇	1840	同 同 二〇	阿片戰爭の開始
二五〇二	1842	同 同 二三	南京條約
二五〇九	1849	同 同 二九	長髮賊の蜂起
二五一六	1856	文宗咸豐 六	アロー號事件
二五一七	1857	同 同 七	莫臥兒帝國亡ぶ、全印度英領となる

二五一八	1858	同 同 八	英國東印度會社の廢止、愛理條約、天津條約
二五二〇	1860	同 同 一〇	北京條約
二五二四	1864	穆宗同治 三	長髮賊の平定
二五三四	1874	同 同 一三	我國の臺灣征伐
二五三五	1875	今帝光緒 元	樺太千島の交換
二五三六	1876	同 同 二	日韓通商條約
二五三七	1877	同 同 三	女王ヴィクトリア印度女帝を兼ね
二五四〇	1880	同 同 六	阿富汗斯坦王英國の保護を受く
二五四一	1881	同 同 七	伊犁條約
二五四四	1884	同 同 一〇	清佛開戰
二五四五	1885	同 同 一一	明治十八年の天津條約
二五四六	1886	同 同 一二	天津條約(清佛兩國の安南に關する條約)
二五四七	1887	同 同 一三	佛領印度支那の成立

略年表



二五五四	1894	同	二〇	日清戰爭開始
二五五五	1895	同	二一	下ノ關條約、三國干涉
二五五八	1898	同	二四	列強の港灣租借
二五六〇	1900	同	二六	義和團匪蜂起
二五六一	1901	同	二七	北京占領、列國會議
二五六二	1902	同	二八	清廷北京に還る

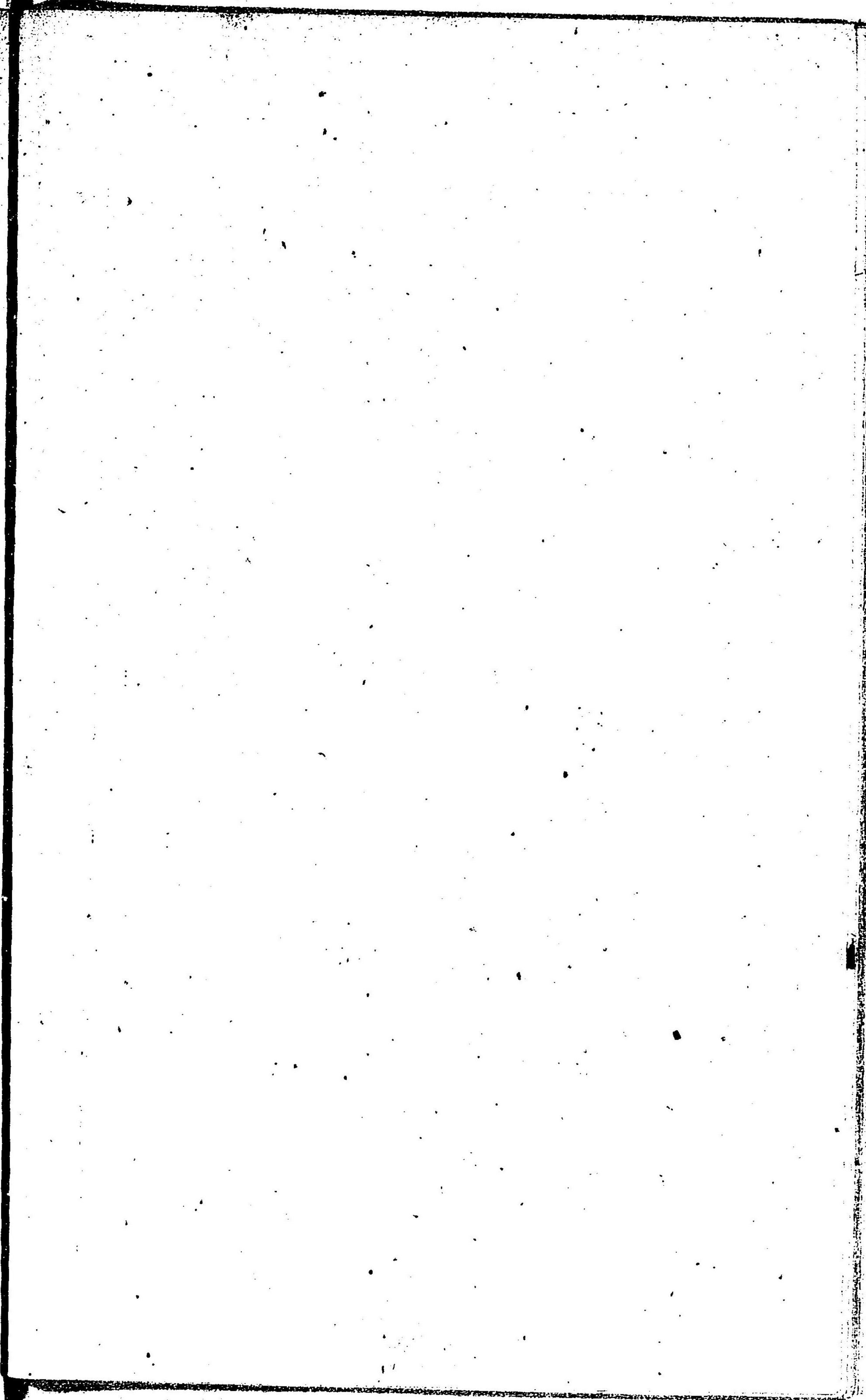
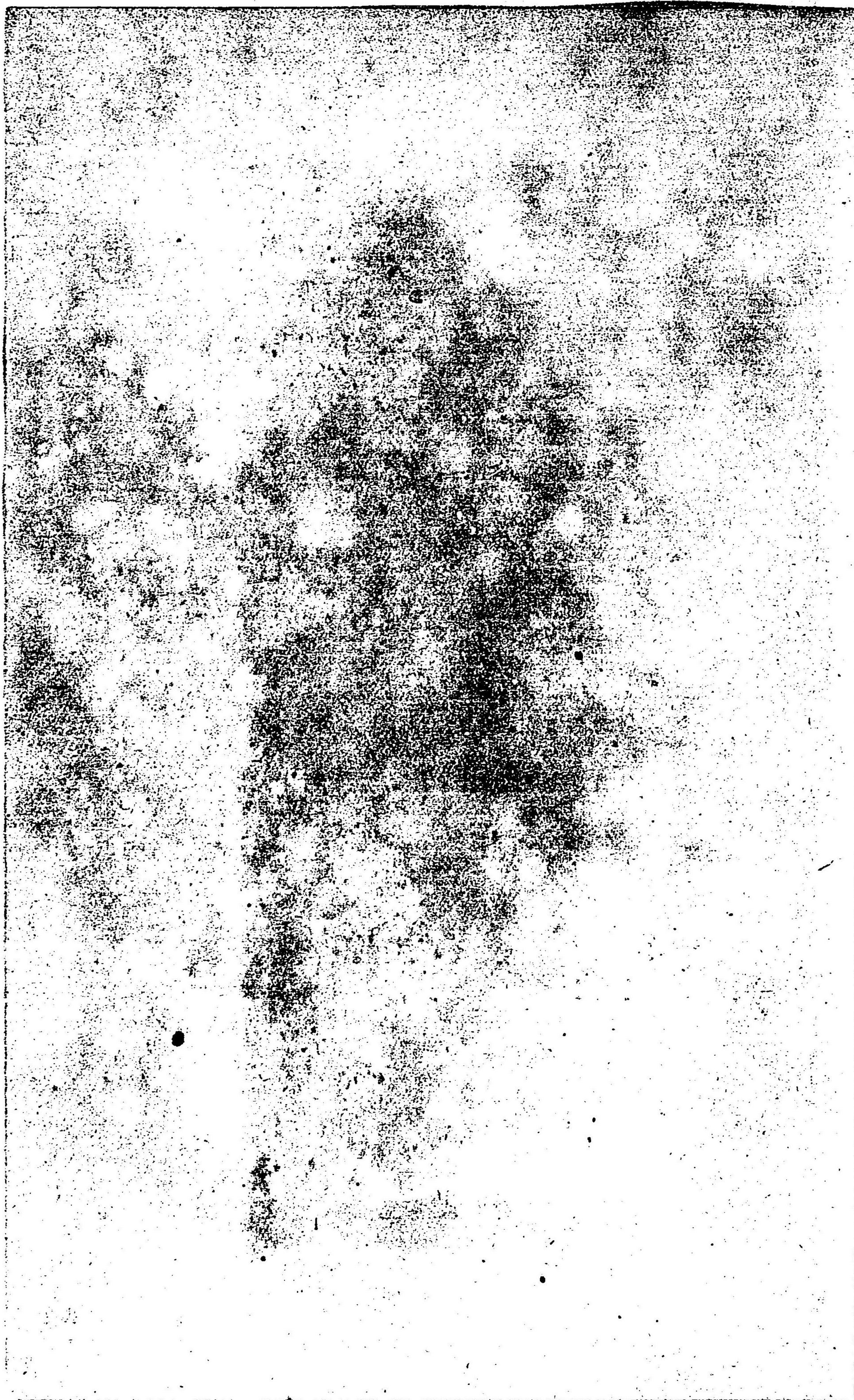
明治卅五年五月三日發行  
 明治卅六年五月十四日發行  
 明治卅六年五月二十八日發行  
 明治卅八年六月廿三日發行  
 明治卅八年六月廿三日發行

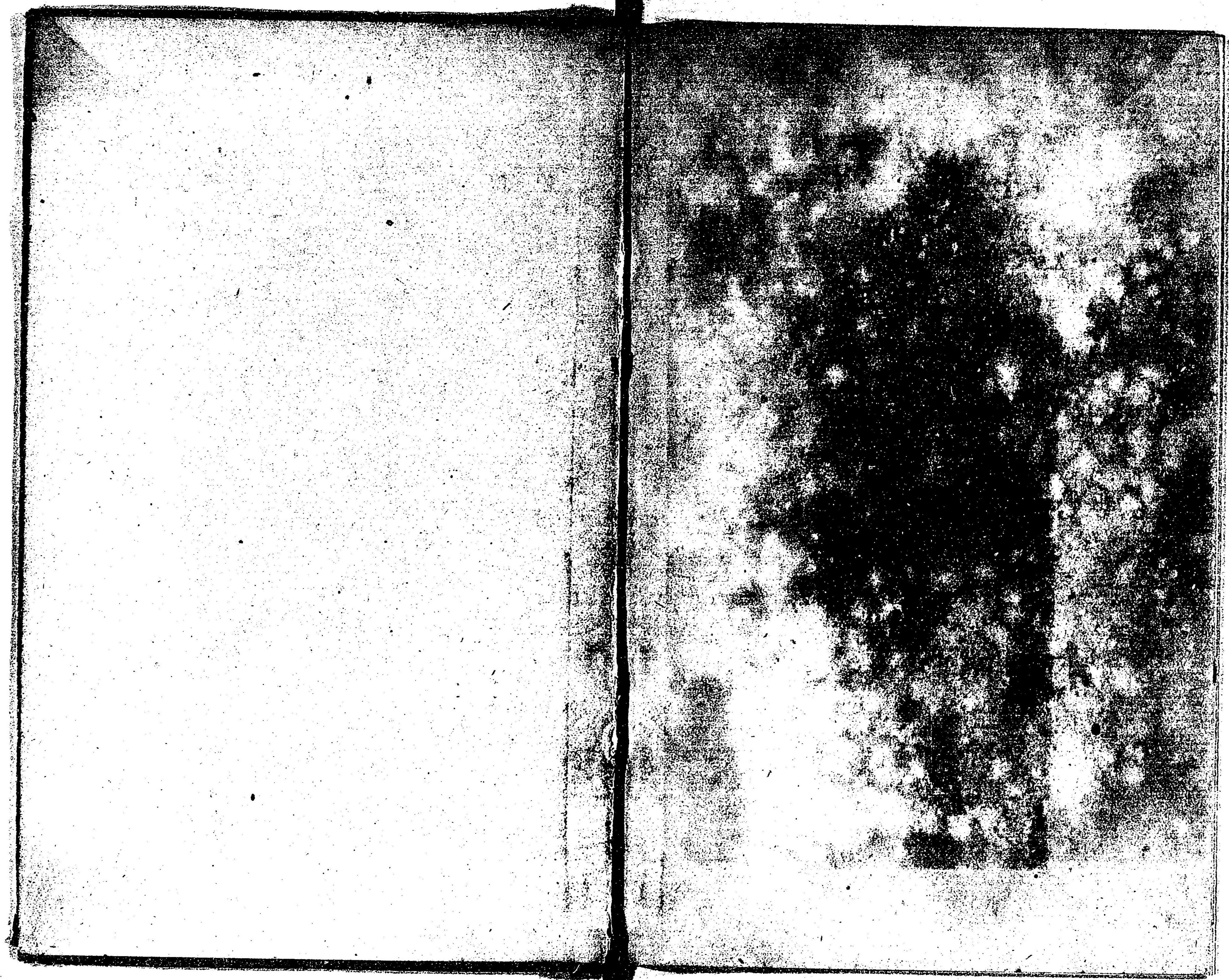
(訂正東洋史)  
 (定價參拾錢)



著者 箭內互  
 同 小川銀次郎  
 同 藤岡繼平  
 發行者 杉本七百九  
 印刷者 大西鍊三郎  
 印刷所 東京市京橋區弓町二十四番地  
 三協合資會社

發行所 日本橋區本石町二丁目十二番地 杉本翰香館





文學士  
藤岡繼平著

參考用日本文學要  
全

金文字入美本  
定價金壹圓  
郵稅金拾錢

本書ハアラユル史實ヲ網羅シテ  
最モ簡明ニ説明シタル一大新  
ノ好著ニシテ文部省檢定受験者  
及一般ノ參考用タルハ勿論又各  
地講習會各學校補習科等ノ教科  
用書トシテ最モ適切ナル良書也

049604-000-7

特20-184

東洋史

箭内 互 / 等著

M38

BEM-0305

